

# 大阪府立 岬 高等学校の取組みについて



## もくじ

1. 学校紹介
2. 校内支援体制
3. 個別の教育支援計画  
個別の指導計画
4. 指導・支援の実際  
本人の変容

# 1. 岬高校の紹介（概要）

- 平成**28**年度より**エンパワメントスクール**
- 平成**31**年度より**通級指導教室設置**
- 令和2年度より**1年次少人数クラス編成**スタート





※約10人のクラスを2クラス準備

大阪府最南端・最西端にある豊かな自然環境

「寄り添う」「粘り強い」教育

⇒自尊感情を高め、社会参加に必要な力を育む

# 1. 岬高校の紹介（4系列）

-  マリンアドベンチャー系列
-  アクティブIT系列
-  ワールドトラベラー系列
-  ソーシャルケア系列

海と山と空に囲まれた環境を活かし、生徒一人ひとりの可能性を広げる授業を展開します。

# 1. 岬高校の紹介（体験的な授業）



釣りの実習



少人数クラスのSUP授業



校外での車いす体験



フィールドスタディー（農業）



体験活動（例：武道体験）



部活 ピリカ部（地域清掃）

## 2. 校内支援体制

### パスファインダーとは？ → 支援全般

- ・ 通級による指導や少人数クラス運営のサポート等を行っている校内組織
- ・ メンバーは管理職含む**15**人程度（学年・分掌を横断して）
- ・ 生徒一人ひとりにあった支援を行い、学習上や生活上の困難さの改善・克服をめざしている
- ・ 週に1回の会議で生徒状況等を共有

## 2. 校内支援体制

パスファインダー

通級、少人数クラスサポート、  
学習面や対人関係

教育相談委員会

心の悩みを持った生徒や  
貧困、いじめ、不登校、  
SC、SSW

人権教育推進委員会

性的マイノリティ、日本語指導

**3つの組織が連携し、生徒を支える！**

**生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援**

## 2. 校内支援体制

- ・ 外国にルーツのある生徒  
→ 日本語指導、個別に授業
- ・ 学習の遅れがちな生徒  
→ 個別授業、個別課題を用いた指導
- ・ 周りからの刺激に敏感で、落ち着かない  
→ クールダウンできる部屋を利用し、早期に授業復帰
- ・ 大勢の中にいることや思いを伝えることが得意ではない  
→ 入学年次に少人数クラスで克服をめざす …等



## 2. 校内支援体制

①聞きとり(本人、保護者)



②気づき(担任、教科担当等)



③パスファインダー担当、教科担当、学年によるアセスメント



④「パスファインダー会議」

定期的な情報共有、支援内容の検討

場合によっては、学年主任、担任、人権教育推進委員長、教育相談委員長、教務主任、養護教諭等も出席

個別の指導計画(案) → 生徒・保護者に確認





## 2. 校内支援体制

### ⑤支援内容の決定、全職員への支援内容の共有、検証、調整

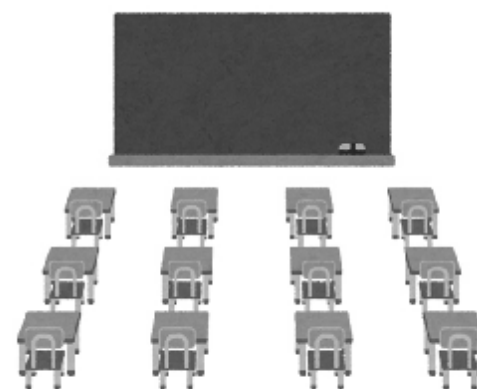
- ・担任から各教科担当に具体的な配慮のてだてや個別の目標などを連絡
  - ・場合によっては通級による指導、SC・SSW・CCとの連携
- 学習支援サポーター、医療機関、福祉機関、他の教育機関、地域との連携



### 3. 個別の教育支援計画・個別の指導計画

#### ◎作成対象生徒

- ・ 少人数クラス在籍生徒
- ・ 通級指導対象生徒
- ・ 配慮が必要な生徒（随時）



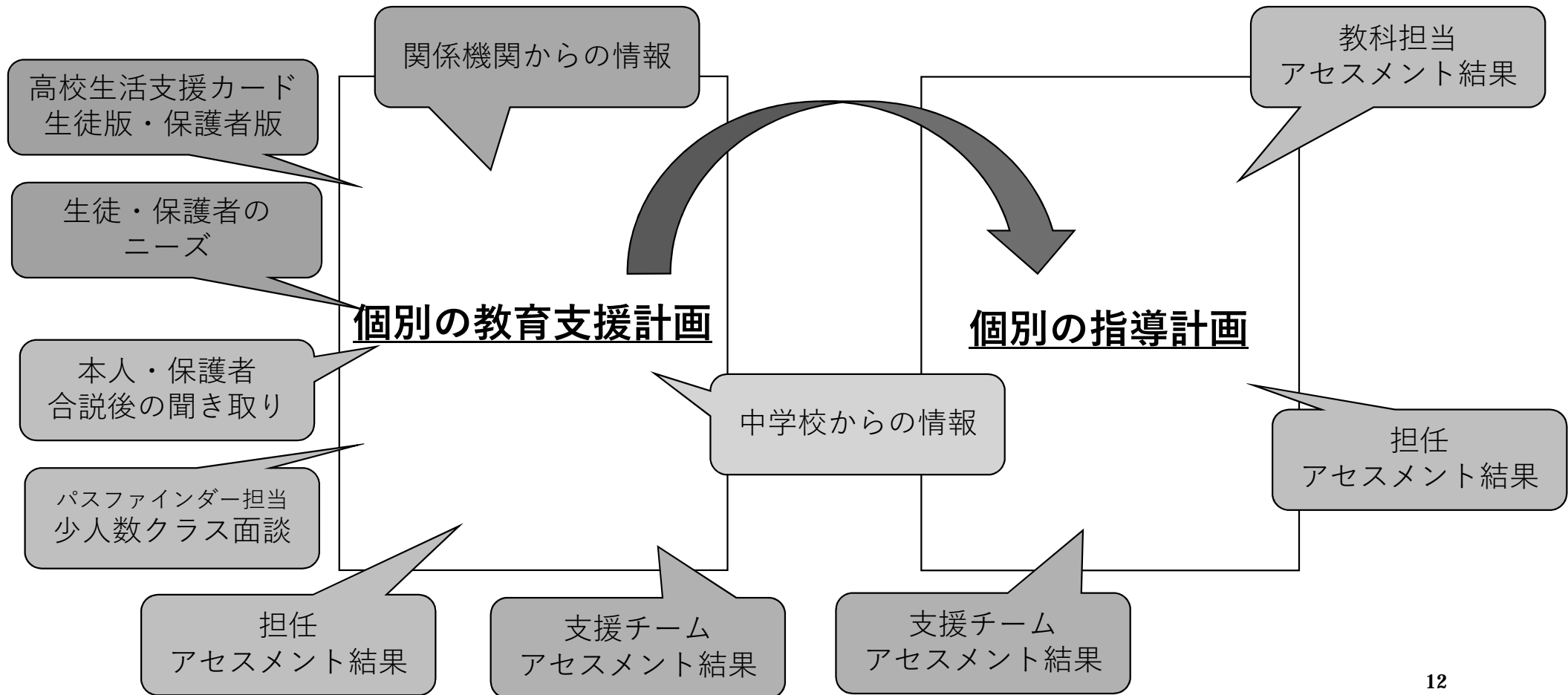
## 3. 個別の教育支援計画・個別の指導計画

### ◎作成の流れ

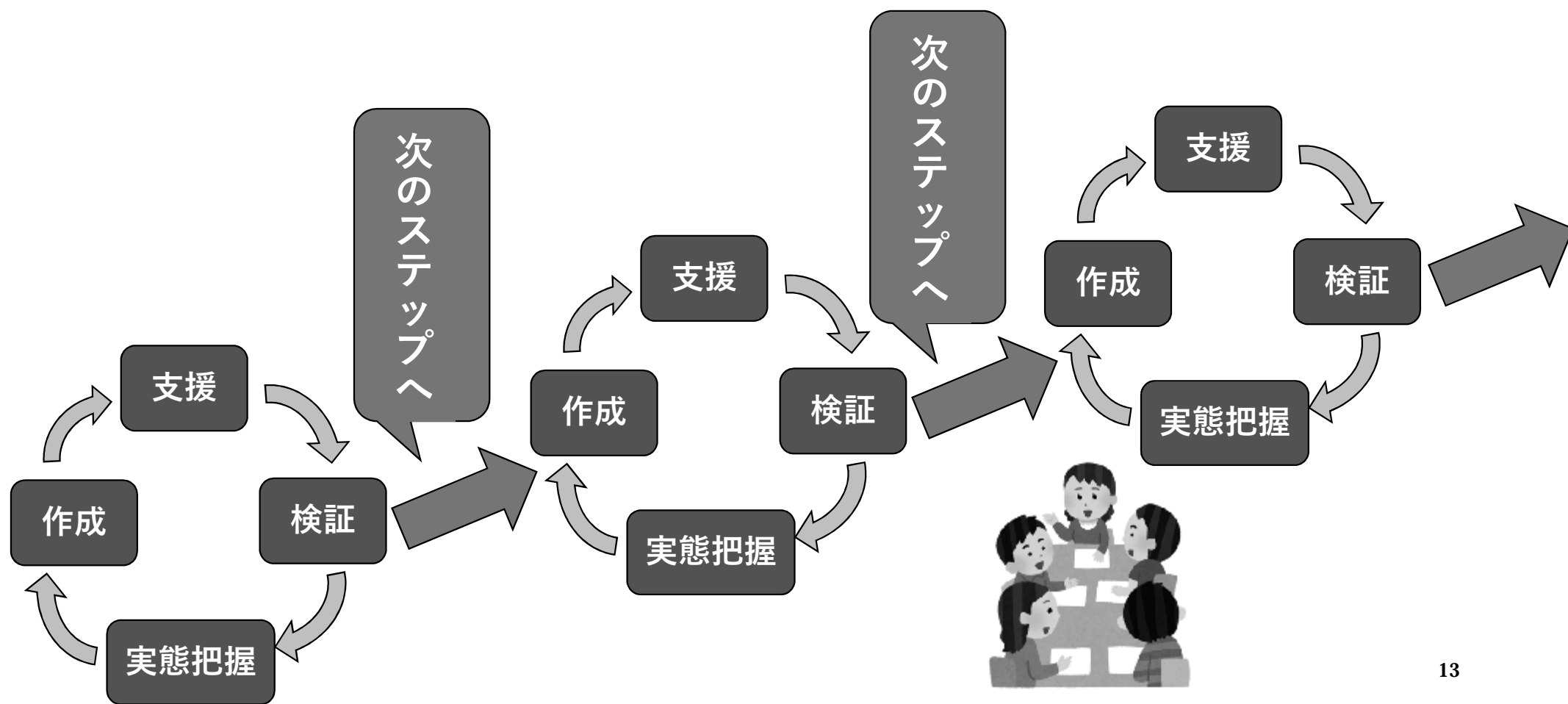
生徒の状況把握

時期	内容	担当
2月下旬～	高校生活支援カード生徒版の回収	全教員
3月上旬	高校生活支援カード保護者版の回収 合格者説明会後の聞き取り	支援チーム
3月中旬	少人数クラス面談	支援チーム
3月下旬	出身中学への聞き取り	全教員
随時	アセスメント	担任・授業担当 支援チーム

# 3. 個別の教育支援計画・個別の指導計画



### 3. 個別の教育支援計画・個別の指導計画



## 4. 指導・支援の実態、変容（生徒Aのケース）

### 【本校で確認した生徒Aの障がい・特性】

発達障がいの傾向がかなり強い。

- ・自分の言葉によって相手が不快に感じていることに気づかない  
対人関係を築くことが不得意。
- ・他者の名前と顔を覚えること、一致が難しい。

### 【中学校での支援】

- ・教員が見守りを行う。
- ・安心して過ごせるよう班メンバー、関わる友人を調整。
- ・保護者とは持ち物、提出物、宿題等を連絡帳でやり取りする。

### 【個別の教育支援計画作成までの流れ】

3月：中学校に聞き取り → 4月：生徒に関する会議及び実態把握  
5月：作成、活用



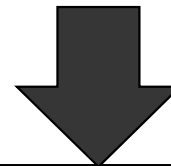
## 4. 指導・支援の実態、変容（生徒Aのケース）

### ◎生徒Aの入学直後の様子



・クラスメイトなどと喧嘩やトラブルが多発  
→「友達なんていない」と発言

・教員に対しても「教師は口だけで、信用なんてできない。」と発言



一人でふさぎこむように・・・

## 4. 指導・支援の実態、変容（生徒Aのケース）

### 【生徒Aへのアプローチ】

#### パスファインダー会議

- ・情報の共有
- ・アプローチの検討



#### ① 信頼関係の構築



- ・落ち着いて2人で話す空間を作る。
  - ・生徒の興味のあることを引き出し、コミュニケーションを取る。
- 担任だけではなく、複数の教員で

#### ② 体験的な学習



- ・学校では見られない一面を期待し、宿泊研修などの体験的な学習を取り入れる。



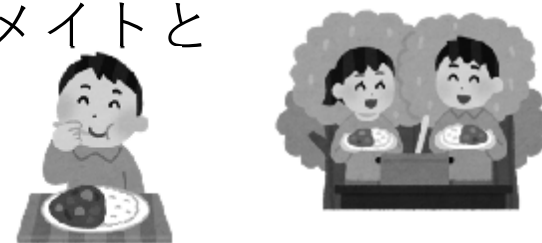
## 4. 指導・支援の実態、変容（生徒Aのケース）

### ◎生徒Aの変容

- ①信頼関係を築けたことで、教員の名前を覚え、自分自身のことについて話すようになった。



- ②宿泊研修など多くの体験的な学習を通し、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとるようになった。



笑顔を多く見せるようになり、挨拶など発言する声量も大きくなり、行事や部活動などにも意欲的に参加するように



## 4. 指導・支援の実態、変容（生徒A・保護者の声）

- ・ 本当に行動してくれる先生がいてびっくりした。
- ・ 宿泊研修が楽しかった。これからの研修も楽しみ。
- ・ 部活動にも積極的に参加していきたい。



生徒

- ・ 人との関わりを避けていたのが、ちゃんと向き合うようになってきている。
- ・ 勉強やクラブ、学校の行事に積極的になってきている。
- ・ 先生がうまく関わってくれて、とても助かっている。
- ・ 家でも学校での授業のことを話すようになった。



保護者

## 5. 最後に

岬高校は  
令和6年度から  
「多様な教育実践校」に進化します！